

立教大学専任教職員 海外派遣期間中の教育研究活動の実績

1. 専任教員

期間	研修先機関名	教育研究活動の実績 * 研究成果(要旨)
2019/9/1 ~ 2020/9/2	イタリア共和国 ヴェローナ大学	イタリアのペローナ市、中国の上海市と麗江市においてICT利用状況を調査した。
2020/8/12 ~ 2021/3/12	ベルギー王国 ブリュッセル自由大学	13世紀中葉以降の聖体信仰の刷新を背景とした信仰の実践と聖体・聖人図像、祈禱文の新たな展開について、新資料の収集とともに、それらに基づきフィリップ善良公所有の彩飾祈禱集写本を実例として総合的な分析と考察を行った。
2020/8/23 ~ 2021/9/1	ドイツ連邦共和国 ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン	現代欧州民俗学の社会的広がりを博物館の現状から捉えた。
2020/10/20 ~ 2021/8/9	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学バークレー校	超長期、大被害(カタストロフィー)に関するリスクの開示内容を適切に評価する方向性を検討し、企業価値との関係を示した。
2020/10/24 ~ 2021/9/1	アメリカ合衆国 ハワイ大学ウエストオアフ校	ワイキキ地区における土地利用と土地所有者の変化に関する研究と、メディアと観光客による観光情報の受発信に関するスマートツーリズム研究を実施した。
2021/4/1 ~ 2022/3/31	大韓民国 梨花女子大学校梨花史学研究所 インド共和国 ジャワハルラール・ネルー大学	南アジアと東アジアの植民地鉄道に注目し、帝国圏の本国から植民地へ技術移植と現地化を戦前から戦後にかけて比較分析した。
2022/6/1 ~ 2022/9/12	フィリピン共和国 バンサモロ暫定自治政府	2022年5月9日の選挙で当選したバンサモロ統一党所属の市長、町長らにインタビューを行うことにより、和平プロセスの一局面を明らかにした。
2021/8/6 ~ 2022/9/19	大韓民国 北韓大学大学院・延世大学 ドイツ連邦共和国 ベルリン自由大学	北朝鮮映画の国際合作に関連する歴史的資料、特にヨーロッパ監督の作品の収集、調査等を行った。
2021/8/10 ~ 2022/9/1	オーストリア共和国 ウィーン大学教育学研究科	ドイツ語圏の入試改革に関する総合的研究を行った。
2021/8/11 ~ 2022/8/12	アメリカ合衆国 フロリダ大学	米国大学の体育会所属選手の活躍や存在の影響力を分析した。
2021/9/1 ~ 2022/8/13	アメリカ合衆国 コロンビア大学	長い19世紀のアメリカ合衆国ニューヨーク市における公共圏・市民性の再編過程について、史料収集と研究を実施し、その成果の一部について原稿化した。在外研究先のコロンビア大学(米国)を中心に研究ネットワークの整備も進んだ。
2021/11/11 ~ 2022/8/10	マレーシア 新紀元大学学院	マレーシアを中心事例として2010年代から登場し、最近では「サイノフォン」というカタカナ語も通用しつつある華語語系(華語系華人)文学について、作家本人や主に大学の陳六使図書館の文学資料を活用することによりつづさに知り、今後の研究構想、資料を得ることができた。
2022/3/25 ~ 2023/3/26	イギリス ロンドンスクールオブエコノミクス オーストリア共和国 ウィーン大学 イタリア共和国 シチリア大学 フランス共和国 IESEG経営大学院	特に英国において盛んな企業の社会的成果(社会的インパクト)に関する理論的かつ実践的な研究を行った。
2022/4/8 ~ 2023/3/25	フランス共和国 リヨン高等師範学校	15世紀フランスのさまざまな著作における生死の意識や男女観について考察した。
2022/8/2 ~ 2022/10/24	カナダ オタワ大学 同国 ブリティッシュコロンビア大学	カナダ・ケベック州における生殖補助医療に関する法規制について状況調査等を行った。
2022/8/15 ~ 2023/9/7	台湾 輔仁大学	各国における不平等や社会階層構造の特徴などについて意見交換し、日本における、独自の社会調査結果について発表を行った。
2022/8/31 ~ 2022/10/30	オーストラリア連邦 オーストラリア国立大学 同国 The Parent-Infant Research Institute	周産期うつ・不安に影響する心理・社会的要因に関する日豪比較研究を行った。
2022/9/1 ~ 2023/9/5	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学バークレー校	アメリカ文学を代表するハーマン・メルヴィル作品における他者の存在に着目し、その意味を考究した。
2022/9/17 ~ 2023/9/4	アメリカ合衆国 シラキュース大学	現代のアメリカの図書館思想を総合的に理解するべく調査および研究を進めた。
2022/12/28 ~ 2023/3/31	ベトナム社会主義共和国 ベトナム国家大学	COVID-19パンデミック及びロシアによるウクライナ侵攻というグローバル観光の現代的な重要課題を実地に考察するため、ニャチャンをフィールドに国際観光流動の新動向を追跡するとともに、観光エンクレーブの形成・変容に与える影響について調査した。調査からは、ロシアからのマストツーリズムの停止とそれに依存したエンクレーブ経済の崩壊、マストツーリストに代わる政治的危機からの避難長期滞留者の出現によるエンクレーブ空間の変容、ロシア語を媒介とした観光文化インフラの転用先としての中央アジア市場の勃興と観光エンクレーブの変容等を明らかにした。

2. 専任職員

期間	研修先機関名	教育研究活動の促進に資する派遣の実績 * 活動成果(要旨)
2023/5/28 ~ 2023/6/4	オーストラリア連邦 RMIT大学 オランダ王国 ロッテルダムエラスムス大学 等 * アメリカ合衆国 ウォルター・E.ワシントンコンベンションセンターにて	NAFSA(National Association of Foreign Student Affairs)の年次大会に参加し、計31大学(協定校12校、新規校19校)との間でミーティングを行った。協定校については、協定の更新・双方の受け入れ人数の不均衡改善・双方のプログラム等の紹介等、新規校については、協定締結に向けての協議等を行った。
2023/5/28 ~ 2023/6/4	同上	同上
2023/9/25 ~ 2023/10/1	スペイン王国 アルメリア大学 ケンブテン応用科学大学 等 * オランダ王国 アホイ・ロッテルダムにて	EAIE(European Association for International Education)の年次大会に参加し、計32大学(いずれも協定候補校)との間で、協定締結の候補校を開拓するためのミーティングを行った。ミーティングでは、派遣学生が英語で履修できるカリキュラムが開講されていることや、学期の開始と終了が双方のアカデミックカレンダーに合致していること、本学から派遣する場合の能力要件の有無等について重点的に確認を行った。